

昭和17年8月1日（土）

炎暑猛し。昨日で国債払込金中、参百参拾四円?八木氏持参に対し、不足額二百九十七円補填し、其の旨逡信局に報告す。切手買受け資金欠乏、40円母堂より借用。払込みにはミワさん行かる。此日8時より講評。正午近く、余切手現品受取りに行きし際、猶終了に至らず。夜、裏の床屋に理髪38。報告物乙部片付く。貯金事故一件、井上貞責任にて後始末を要するものあり。森田氏帰宅後、伊勢氏一人をやる。此日暑熱猛し。水数回冠る。朝明るくなるまで、30分陽短縮す。

昭和17年8月2日（日）

午前10時30分より講評。開襟シャツ、靴にて行く。商工会所、脱靴、三階。十一時近く開会。国民儀礼。下毛全部集合。監察課長の総評、次いで歴史観より観たる今次の大戦争と題し、蘊蓄を傾け一時間半に渉り講演。午後より一般個々に対する講評。午後4時閉会。中津局長、守江局長、柳浦局長、宇佐郡よりも見ゆ。此等多数来賓者の参集の下、講評は進めらる。今回の監察に於いて、耶馬溪局長の不正事件あり。数年に渉る問題とあり。守江局長より、右に対し一応のお詫びの評あり。中津局長よりも挨拶あり。昼食は鮎。

昭和17年8月3日（月）

昨夜森田さん飯らず。伊勢さんも8時出勤せず。余、局報受信。発信はミワさんに頼む。窓口事務忙はし。10時伊勢さん来る。切手資金払込みにミワさん行かる。貯金預入れ報告洩れ5円に対し、当日井上氏の取扱いにて4,96臨時受け。4銭の追加報告は更正証明書と共に作成し、

ミワさんに頼み為替に批判して貰ふ。午後の受取りには余行く。中津局長、頃日体操に参加。此日も同様参加の間、余、昨日電信当務者問題を挨拶中に織り込みあるを、或いは当局の関係かと想像し尋ねたるも、然らざるものの如し。切手類倉庫より受取り販る。今日も数回水にかかる。道子より葉書。上京の問題あり。汽車時刻を知らして呉れと云って来る。

昭和17年8月4日（火）

日出町二班より二百五十七円、国債の金を送付越せり。是に依り残三十円となる。漸く切手代に充当し得るに至れり。貯金増進状況報告書作成、栄町に二通送付せり。今朝街頭掃除の際、栄町長、郷里に二男一女を伴ふて販るを見る。甚十郎氏、午後9時長崎より到着。ミワさん迎え、母堂夕飯の仕度を整ひらる。

昭和17年8月5日（水）

晴れ。連日の旱天（かんてん）にて、野菜類、頓（とみ）に品不足を叫ぶるに至る。南瓜類の出廻り殆どなし。西瓜も市場より其の影を密（ひそ）め、茄子も亦見当たらず。東京の敏子さんよりの便りでは、昨年より配給具合円滑とあり。道子より照会ありしも判事に面会する機会なく、それが済むまで返事を出せぬとあり。此の手紙を封入して道子に送れり。昨夜甚十郎を伴ひ、ミワさん外出。坊やの為に犬150、及び竹製椅子200求め来らる。此日は外出せず家に居らる。切手請求多量に準備。払込みにも請取りにも、余行く。森田さん来たらず。二階に甚さん寝む。

昭和17年8月6日（木）

5時頃よりぽつりぽつり降雨。併し間もなく歇む。甚さん午前7時の汽車にて出発。ミワさん坊やと送る。切手請求なし。森田さんより足の病治癒せず、日曜には舁れると思ふとあり。伊勢さん連続勤務方お願いします。今日切手類請求貳百余円、売捌き所より申越しあり。

昭和17年8月7日（金）

朝来雨模様。街路濡る程度なりしが、其の儘午後に及ぶ。幾十日振り、青物は蘇生す。併し、程度は土下一尺に侵透せしや疑わし。水道栓水漏り直して貫ふ。簀の子目隠し、事務室入口及び為替通路面の二ヶ所。8円は高過ぎる嫌いあり。蓋し暴利なるべし。横田政恵さん萩餅持参。

昭和17年8月8日（土）

曇り、後晴れ。切手類請求払込み、及び請取り共、余行く。頃日、局長11時45分頃よりの体操に参加さる。木下主事指導の下、第三体操まで各二回づつ実施模様なり。午後3時頃、放送局の中当氏臨局。明日鶴居に行かるる由。少時話して北浦町に行かる。巖不在。久子相手に咄して居られし由。久子より電話あり。宿屋は竹内にし、同旅館に通告置けり。此の時刻（局に見えし時）雷鳴激しく、電燈消ゆ。何か故障ありしか、夜になりても点燈せず。恰度新聞を窓口にて見居りし故、困りしが臈（やが）て点火せり。巖、竹内屋の何れにあるかを知らず。訪ねて見ゆ。中当氏を連れて来たりしが、案内役も家を知らざりし為、客を置去りに余の許に来たりし如し。前田さん午後より早退。貯金切手第3回売出し。ミワさん朝より、窓口に多忙。

昭和17年8月9日（日）

昨日秋季節に入る。風涼しさを感じる如し。ミワさん下痢。粥食我等も接伴す。午後5時43分着にて、森田さん飯来。便覧挿換え。坊やに粥少しやり、午後8時にやる乳は、遂にやらずに7時前より眠る。

昭和17年8月10日（月）

岩尾さん遅刻。腫れ物出来たる由。窓口、前田さん責任者となる。其の点岩尾さんには楽なり。貯金切手、残50余枚。ミワさん窓口に、保険だ年金だ弾丸切手だと忙しき為、来ては見るが苦しいらしい。清松医院に診て貰ふ。其の前ひまし油飲みたるも、余り利かず。清松医にても、ひまし油多量に飲み注射せし由。絶食、横臥。坊や主として余世話す。伊勢さん4時飯り。今日も粥食。坊に8時の乳中止。麦粉菓子練りたるもの朝遣り、粥食始めてより半碗程、朝夕遣る。其の代わり、午後8時の乳を遣らず。結果はウンコ数多く、余り香（かぐわし）しからず思はる。此の朝坊や牛乳待遠しく、お乳粉は未だ煮えず、気を揉みたるミワさん色々不足を揖（やわら）ぶ。母堂気を焦り立ち哺乳瓶を取落とし、一合の牛乳と5勺のお乳粉は瓶と運命を共にす。

昭和17年8月11日（火）

晴れ。朝髭剃りす。午後5時、暫く振りで角野医かかり行く。患者居らず。二階は蒸さるる如く暑し。奥、右上の療治にかかる。隔日に行くこと、前の如し。岩尾さん自動車通勤。森田さんに聞く。父君は嘉穂会館に出勤し居らるる由。弟君、横浜高商より暑中休暇にて飯り居ると。

ミワさん重湯にて過ごす。

昭和17年8月12日（水）

盆は一ヶ月遅れの明日十三日より。蠟燭欠乏。線香のみ市販あり。本年は大川薬店、隣家の林、向い側の肉屋等の外、竹屋も金物屋も初盆らし。此日近所に対しては、品物にて供養の意を表さる。時局柄、一々附届けは廃止したらよからんと思料するも、贈る者受ける者、何れも旧態勢の墨守家にて困りもの。坊や事務室にいざり来て、幾度となく連れ行く。切手箱を、現金を、書類を掘み出し皆に迷惑をかけて居る。夕方よりミワさん、坊を連れ買物に行かる。麦粉菓子等求め来らる。途中道路に下りるとて聴かず、下ろせば販らぬとて利かず、頗る当惑せりと。10時まで寝ねず。消燈して勝手に眠る。午後8時の乳は代用とて好まぬを機に、5時の夕食時、粥を与え乳を呉れず。坊二三歩歩くも、未だ匍うことの方が便利らしく、危うき足どりで用心しつつ一歩一歩と歩くより、急の場合は匍うに限ると謂った調子。

昭和17年8月13日（木）

朝粥。仏壇を神棚を夫れ々々の向きにて、おのがじし趣向を凝らして飾り立てらる。葡萄、桃等、供物の数々も排列を考えて整理さる。葡萄は坊やに汁のみ少し許り遣る。夕食は軟らか目の飯。切手類請求。今日の暑さは暑中後最高と思はる。資金も二度。一度は切手受取りの際、二度目は午後2時。最初は豆腐屋の前まで来たり思出して、葉書二千の重さを担いだ儘戻る。午前中眠くて何も手が附かず。坊やを寝かして30分間程、転寝す。起きると切手取りに出掛く。夜は坊9時になりても寝らず。

電燈を消して9時半漸く睡る。午前1時頃まで、ミワさん等起きて居らる。夜半、仏が来ると謂ふので。

昭和17年8月14日（金）

暑気強し。昨今が頂上なるべし。午後中津局より監視員、小為替払渡し済否取調べに来る。次いで豊後町、一ツ松に及ぶ。今日往復葉書のみ品切れの為、六百枚請求。現金払込み現物受取り共、余行く。品受取りの際、資金請求あり。奥畑主事に面会。集配員の態度言動に付き、注意を求む。夜食はうどん。坊やも相当、手握りで食す。湯に行き、早口で訳の分からぬ言を謂ふて人を笑わす。側で聞いて居れば、外国語を操るに似たり。今日は大分食い、且つ水を飲む。腹に障りなきかを恐れエキスを与ふ。九時過ぎ、ミワさん巖方に行きし留守に寝る。金五円、外に饅頭、葡萄等を持行き仏前に供す。智子が居りたる由にて、態々福岡まで巖が連れ行きたる筈。如何なる理由で連れ販りしや、聞くことも出来ずに販らると。此日、佐世保より寿夫に嫁を迎え来る。25日挙式、出席を促し来る。如何なる方面から貰ひしやも明瞭ならず。余は之に対し、出席の如何に不関、相手の地位境遇等、通告ありて然るべきものなりと注意し、10円を小為替にて送る。尚三谷へも3円送る。これは墓掃除に対する例年の慣習なり。日一日と朝の時間が短縮し来る。

昭和17年8月15日（土）

朝来曇り、午後より降雨。朝8時前後より、多少降りしも微少。午後よりの分は相当量降るも本格的ならず。4時過ぎ歯科医かかり行く。角野先生休養し居られる如く、代わりの若先生療治し下さる。鐘紡にて英霊供養盆踊り。

余、米の粉にて団子を作る。今夜、仏帰還する由にて、11時過ぎまで母堂起きて居らる。仏壇は色々の品物で飾られ、自慰する老人の心根を察すれば同情禁せず。坊や起きると、菓子を食ひ乳を飲み、麦粉菓子の練りを食べ、軟らかに炊きし飯を食べ、汁を啜り湯水を沢山飲む。急に体重加わり、抱え歩くこと容易ならず。土間に下りたがり、足や手を泥にまみれさして喜び遊ぶ。此の日、夕飯に小豆を入れた赤飯を作らる。煮メ、椎茸、馬鈴薯、南瓜、こん蒻、御馳走あり。団子は伊勢さんまで頒つ。赤飯は森田さんへも。仏霊、夜半還ると云ふので、母堂ミワさんと11時過ぎまで起く。

昭和17年8月16日（日）

此の朝、街路掃除今少しで終わらんとする際、母堂余を呼びに来らる。ミワさん眩暈すと。水にて頭を冷やし居らる。脈搏を見るも、熱発の形態に在らず。朝飯時団子を頂かんとすれば、腐敗の初兆を呈す。煮て貰ふこととす。昨夕遂に頂かざりし赤飯頂く。ミワさんを連れ清松医かか行く。患者拾数人あり。後刻電話迎えに来て呉れと。直に出掛け一緒に飯る。葡萄糖と心臓への注射を受け、胃酸過多症。前夜の小豆飯が悪かったと云はる。午前中新聞を見、仕事に着手したるは午後より。道子より坊やの引取り方を、申出居る。配給が気になるらしい。返事は「迎えに来い、何時でも遣る」。敏子さんから手紙あり。10月頃調べる。其の上で保釈になるかも知れぬとありし由にて、上京見合わせの旨、申越せり。余の返事にも、東京行きは実は不賛成故、折角余の意見を求め呉れしも返事せざりしもの。自発的に中止する以上、当時不賛成なりし旨、申遣る。坊やを守りして駅に遊ぶ。4時20

分まで約半時間。上り4時15分、臨時列車の到着を見て還る。7時過ぎ坊やを寝かす。8時久子、稲荷鮎作り持参。悦子和博来る。智子他に遣ることに頻りに苦慮し、後妻迎えに東奔西走すと教ふ。9時久子、森田さんと話す。余仕事に着手、10時40分やむ。久子9時50分帰る。竹屋より丸房露貫ふ。夫れを久子に遣れる由。坊や9時過ぎ、森田さん連れ二階に上がる。坊やの泣き声す。余二階から森田さんより受取り、再び寝せたり。痔、立って計り居り悪化す。不用書類の整理は、立ち続けの已むなきを以ての故なり。

昭和17年8月17日（月）

為替窓口岩尾さん、お腫も切開して意外に早く癒り、昨日より自転車を通ふ。此朝は夜半より降雨にて、街路の掃除をやらぬ。午前中頗る睡し。10時頃ミワさん、清松医に余連れ行く。先生不在。電話により連れに行く。往復二度、坊を負ふて傘をさす。夜は7時半、坊を寝かして余も寝る。11時頃、湯浴みして夕刊を見て寝る。3円余出して、滋養強壯剤を求め飲まる。坊や昨日より一二間歩行し得るに至る。余の椅子より森田さんの居る処まで歩き、何遍か行き其の都度連れ戻る。朝より粥食。鮎は朝一ヶ頂く。母堂、朝と晩の二回に食べられたる如し。降雨歇みては降る。4時15分、歯科医かかり行く。待合い居る間、驟雨あり。5分間にて歇む。

昭和17年8月18日（火）

曇り、時に晴れ。午後多少驟雨あり。ミワさん嘔吐が継続するとて、清松医かかり行かる。此の時は余連れず、単独にて行かる。坊やの菓子50銭求め来らる。朝粥、

タうどん。鮮魚はよし、滋養剤は消化し得るに至らざれば効なしとあり。道子より葉書。上京の不賛成の理由を教えて呉れと来る。返事出し置く。坊や随分食べる。幸に消化に異状なし。朝起きる7時近く菓子、牛乳、麦粉菓子、粥。夕食は粥、うどん。此の間に滋養剤をやり菓子を与ふ。午前中眠り、午後は眠らず。9時半頃睡る。余8時湯浴みし、新聞を見て9時30分休む。

昭和17年8月19日（水）

此の朝、久子福岡行き。窓口に来て、小母車を措いて、荷物を前田さんに持たせて駅に駆け付けたらしい。其の話が、森田さんから後刻話された。ミワさん何故に一寸知らせて呉れぬかと、厄鬼となりて攻撃する。お鉢が前田さんにも及ぶ。切手資金七百円弱払込みを了して販り、その問題は久子の不注意、及び気が利かぬ余り利巧でない処から生じたもので、俺の責任だから俺からお詫びをするとて皆の前で挨拶をし、母堂の処でも同じ様に断る。俺の心持ちでは、久子を責めても今更どうにもならん。況んや森田さんや前田さんは好意から荷物の世話をやって呉れたもので、寧ろ感謝こそすれ、不足がましき言辞を弄しては済まぬわけだ。斯かる場合、誰が悪いと詮索する必要はない。過去の問題として葬り去ってよいのだ。こんな気持であるから、俺が悪いと悪人が出れば済む。夫れで俺が悪人になって皆に詫びる。これでよいのだ。11時40分、切手受取りに行く。晴天。相当暑い。が気候は立秋。風の肌触りは冷たい。もう秋だなと云った感に駆られる。家の中に居れば汗は出ぬ。4時少し前、角野先生かかり行く。森田さん、午前5時頃起きて便所にでも行き、塞がって居たため、炊事場の方の戸がする

する明きて其の儘になりおる。これはミワさんの仕事と思ふて寢床を見れば、別に起きた様子もない。さては森田さんかと思ふ。後にミワさんに話せば、泥棒だろうと云はる。為念、森田さんに訊ねれば自分だと仰言る。森田さん10時頃どうかしたのか、清松に行くとして行かる。正午過ぎ飯り、二三日眼薬すれば癒ると云はれたり。寢冷え、下痢らしい。

昭和17年8月20日（木）

晴れ。逋（さすが）に吹く風に秋の匂いあり。暑いと謂うふも、肌触りは汗が出る程ではない。不用書類は保険年金が片付かず、大いに努力して夕方までに報告書を作成発送せり。これで大仕事が解決した、ほっとした気持。角野夏子氏への感謝状と記念品も発送したらしい。先達、却って角野さんからビスケを一二円程度頂いた。何の意味だろう、褒状が到着した御礼の意味かも知れぬ。無下に戻す訳にもならぬから頂戴したが、発表後一ヶ月、未だ褒状も記念品も来ないので、内情を聞いて呉れとの謎であったことが分かった。そうした物を頂かぬとも、責任上、尋ねてやるのが当然故、逋信局へ意見を申し遣った。今逋信局の通牒を受けて、早速角野氏へ通告した。此の朝、道子より上京の理由を申越した。坊やを連れに来ることは、今月は防空演習で出来ぬと云って来た。坊やを久子が措いて行った小母車に乗せ、5時過ぎから20分間ばかり挽いて行く。坊や寝むそうなり。今少時乗って居たいとせがむ。事務室へウンコをやり、不用書類に小便かける。

昭和17年8月21日（金）

晴れ。敏子さんより手紙。久子より葉書ミワさんに来る。敏子さんののは、道子が上京を中止せんとして居るらしいこと。貢の檢察模様を今少し具体的に知りたいと云って来たが、そう突っこんで聞くことは、先方の心証を害して、貢へも印象を悪くする惧れあること等。久子の分は申訳的な文句のみ。連合協会より事務服の見本送付越せり。俺の分のみ6, 80、受取り置きたり。地は曩に見本として見たことある国民服、二十余円と云ふ安価な地質と同様のもの、国防色の織り方の荒いもの。女子用見本は、此日返送せり。為替で百円多しとて、二時間余頭を悩まし、臨時受け入れとして計理し、5時半頃帰途に就けるが、8時頃梅乃井より電話あり。預金二百八円に対し、通帳面百八円にて百円不足なる旨、申出あり。通帳を持来らせ、明朝当務者が出勤後、取計らふ旨通告し、通帳を預かり置きたるが、女中も通帳を百八円が正当と思い込み、客が出発に際して相違を発見したので、駅待合室で通帳の届け先を調べて貰ふ等、大騒動して埒明けたるが、女中も嫌疑を免れ、局も事故判明し、八方が明朗化したることは洵（まこと）に嬉しき極みなりし。名義人は女中を疑い、女中は局を疑いたる問題なりし。

昭和17年8月22日（土）

坊やと神様に行きたり。其の前ミワさん粥を煮、朝食は何時でも済まし得る様、準備出来たり。母堂、緩々（ゆるゆる）起き出でらる。今日神様の祭日。昨夜の百円過剰に対する埒が明けて、皆喜ぶ。夕方坊や神様より販り、粥の釜の中に手を入れ一部火傷、大いに泣く。再びミワさん神様に行かる。6時頃より坊や眠る。道子よりメリケ

ン粉のてんぷらを送り越せり。夕食時、少々頂けり。ミワさん、癒りかけの胃腸を再び悪くするを恐れ食はず。第一班長は瀬口氏受託すと聞く。昨日より瀬口の息子五年、竹屋の息子六年、坊やをダシに遊びに来たり。座敷に入り込み、おもちゃを勝手に取り出し遠慮なき態度なるも、坊やは喜び事務室に来たらず。其の間、仕事が出来て都合がよろし。此日7時頃より横臥の儘、本眠りに入る。

昭和17年8月23日（日）

晴れ。次第に曇り、午後より遂に降雨す。中津駅前郵便局長代理印の、駅前の二字削除方、林の小父さんに頼む。是れと共に即時払いに対する「自由預入」「他局預入」等の表示を、受領証右方欄外に要することとなり、印刷を注文す。朝の内、丸吉に事務服を求めに至り、国防色にて5, 60にて五着、余のズボン9, 00にて求め、小母車に坊を入れ、人形や防空用水槽中に鯉が游（およ）いで居る態を見せなどするうち、店員の女性達、坊を抱き人形を取り出して眼の前に搬び、頗る可愛いがる。今日神詣で。坊、餅切りの部屋に侵入。餅を貰ひ来ると驚かる。栄町局為替係の事務員、退職して此日帰国する由にて、伊勢さん、前田さん来たり。臈（やが）て栄町局、他の事務員も来たり。何か送別の意を贈り物にでも表したらん。午後5時まで全部の人々二階に寄合ふ。雨しとしとと、2時頃より降り初む。角野医かかり行く。前日、奥上顎の手前の金歯が抜け、半分より残って居らぬに驚きたるが、其の歯が障碍を口内腔の壁に及ぼし当惑せり。本日補修して植え換えらる。更に手前の金冠も改めて貰ふ。腐蝕して居る由。家に帰りて調べれば、更に手前の金冠も抜け初む。序でに之も補修して貰ふ積もり。

昭和17年8月24日（月）

晴れ。風邪気味。左の扁桃腺が腫れて居り、夫れが齒に及ぼし噛むに困難を感じしむ。事務服ミワさんより交付。今日、少時振りで切手請求。葉書四千、5銭切手三千請求。まこと、竹折木下両主事へ届く。午後より切手類、請取りに行く。坊や歩行は可なり上手になる。事務室に来ては窓口の金函に手を差入れ、お金を出す。切手箱を抽出する。不用書類から手任せに引張り出す。名状すべからず。今日葡萄の汁を絞って遣る。色々食べてウンコ屢々やる。道子葉書。貢、退職金500円到着。山根氏へ50円謝礼せよとあり。このお金に手をつけぬ積もりなりしも、夫れから出さねばならぬと思ふとあり。尚、何か仕事につきお金をとる必要ありと云って、未だ坊やの養育と関聯せしめる積もりと思はる。夕食に豚肉あり。之を食べつつも、其の不必要を知るものから、噛むに骨を折りつつ消化不良を惧る。午後6時坊やを寝かす。早く寝かして其の儘、翌朝に至る。

昭和17年8月25日（火）

晴れ。請求に行かず。昨、左の上歯痛みたるは、歯自体の原因あるものと認め角野先生に訴えしも、原因は扁桃腺に在り、顎の腫れ引き痛みも止まったり。4時過ぎ、角野先生かかり行く。先客四五人居り、新聞見て順番を待つ。岩尾さん今朝遺骨が来る日、金土両日休ませて呉れと申出づ。為替補助正面に方向転換を申出て、其の方可なるを認め、配列を直す。何れ大工に調製方付託の見込み。ガラ市販なく、木炭二俵持参せり。

昭和17年8月26日（水）

曇り。10時頃より降り初む。間もなく止むものと思ひ居たるも、降りみ降らずみ、五月雨（さみだれ）程度に終日続く。逡信局陣内書記、11時頃臨。集配局給料問題等にて講習会開催。其の会場は何れなるや、中津局に尋ねたるに、樓上にありと云ふ。余、裏より清松医院横まで送り、和傘を貸して遣る。午前中は別の書記が講師として臨み、陣内氏は午後より臨むことになり居れる如く、和傘は午前中の講師がさして来らる。其の人が電話を会場にかけて、門司に向かはる。此の朝、5時より坊や起き出で神詣で。8時朝食。11時まで睡り、2時起床。7時前寢床。給料遂に到着せず。為替午後5時迄。貯金切手当籤者に対する支払い、ぽつぽつ初まる。岩尾よし子さん5円に当籤。本日支払ふ。長兄の遺骨迎えに兄達、佐世保に行き、明日午後飯着の筈。

昭和17年8月27日（木）

夜来風雨劇しく、便所廊下水に晒さる。夜明け後、風雨衰ふるものと想定したるに、一時的は歇みたる時もありしが、次第に暴風雨の兆しを呈し、掾（えん）雨戸一旦開放したるも再び締めたり。斯くて終日、締めたる儘となし置けり。岩尾さんバスにて往復。前田さん午後6時過ぎ伊勢さんと飯宅。余、角野医かかり行くに、ズボン濡らし絞りて乾かす。和傘も骨が折れそうなり。通行人何れも行歩に悩む。而して、折角行きし歯医者も電気停電、事務中止の不得已に至りしとて空しく飯る。水道止まる。電報二通回線不通、郵送せり。

昭和17年8月28日（金）

岩尾さん今日から二日間休み。暴風雨も此の朝になり収まりたるも、電燈も水道も不通。電燈は隣り、及び向い側の肉屋、及び裏の上村さんの住家には夜を徹して明光を投げて居るが、停車場一帯は全く闇黒の姿である。街路掃除にも、昨日の暴風雨を偲ばるる壁土の破片、硝子窓を破壊した硝子の夥しき破片の散乱等の外、何れかより持搬び来たりし樹木の葉が、細枝をつけて飛散り、凹地には水溢れ、特に局前が目立ち、道路の破壊が見られる。朝飯を炊くに、林より水を貰ふ。6時半頃より水道水出づ。天候は晴れなるも、雲は幾分多し。切手請求、受取りには坊を小母車に入れ、一時過ぎより出掛け、葉書六千、印紙共、七百余円分持販る。夜、坊を駅に連れ行き一時間遊ばす。

昭和17年8月29日（土）

朝降雨。街路の掃除見合わす。驟雨的にて永く降らず。岩尾氏休暇。此の日清涼の気漲り、坊やも湯浴みせず。蚊も大分居らず。蚊遣り香の必要も薄らぐ。3時過ぎ角野さんかかり行く。直に治療して下さる。患者居らざりし。往く途中降られ、5分間計りにて歇む。還りは降り歇みつつあり。夕食後、駅まで坊を連れ遊ばす。8時近く神詣で。9時過ぎ販る。余寝かす。牛乳朝配達遅れ、玄米乳にて代用。正午と夕食時に各一合五勺を与ひ、軟らかに煮たる粥に近き飯を、格別に造りと与ふ。此日、海軍志願兵受験の為、各宿屋に満員の姿なり。昨キャラメル二個購入。坊やビスケより此の方を好むらし。

昭和17年8月30日（日）

晴れ。坊やの寢床、寢巻等を乾かす。ミワさん4時半より起き出て飯炊き。7時半頃までに朝飯を済ます。9時頃発車の吉富町通過のバスにて、幸子の岩尾さん宅に行かれ、香奠3を供ふ。10時半飯らる。不用書類処分方、通牒あり。引継ぎ書一枚のみにて発送不能、直に臨時請求す。午後零時30分、久子来るかと迎えに出らる。巖も来たり。局に立寄る。後継者に付き謂はんとす。余これを遮切り、近頃第一線に立ち荐（しきり）に捜し廻ると聞く。決して夫れでは、好配偶を得ること難し。第一、夫れでは人間として床し味がない。じっと辛抱して居れば、周囲が気の毒に思ふて進んで世話をするようになる。それでこそ立派な人物が、挺身来て呉れるものだ。人間は自分さえよければ、仮令（たとい）それがために对手が悪かろうが、頓と顧みないのが常だ。甚だしきは深切に注意して遣っても、悪意に解して返って夫れを恨む。而して余計な世話をするなど云ふ。或いは儂の子供だ、儂が自由にするにおせっかいは不要と云ふ如き、夫れだ。子供は自分の私有物ではない。国家が色々骨を折って世話して下さるのも、理由はそこにある。自分が言葉に窮するとき、往々暴言を吐き此の言をなす。其の愚、及ぶべからずである。久子が自墮落な生活を福岡でして来るから、こちらに来て其の慣習がとれぬと謂うも、寧ろ福岡では男も及ばぬ演習の連続で、道子など屋根上がりを二度もさせられたと云ふ。実に緊張した生活を営み居る。久子が手を拱（こまね）ひて傍観することを許さるべきであろうか。同情を以て接すべきだと思ふと、一時間近く色々話してやる。巖、坊主の修養話よりは克く応えた

云ふて去る。午後5時30分より松葉屋にて、出征の為に町内より餞別を募り遣りたるに対し、送別の意味にて晩餐会を催さる。6時過ぎよりミワさん行かる。余坊を連れ、駅に遊ぶ。9時を過ぎミワさん販る。9時半独自に寝る。明朝7時、松本氏の壮途を寿き、神明の加護を祈願し、8時駅まで歓送方申し合わす。

昭和17年8月31日（月）

前日の暴風雨は九州一円を荒らし、電信話回線の障碍、猶回復せず。此の朝森田さんに電報来る。内容不明なるも直ぐ来いとあり。事の如何を不問。直ぐ来いとあれば行かざるを得ぬ。森田さんは内容を知悉し居る如く、別に焦躁を感じぬらしく、落着き払って9時頃出発。郵便、余窓口に頑張る。此の朝森田さんに注意し、食物を腐敗せしむるに忍びず、何でも出して置く様咄す。飯、汁等持込まる。晴れ、時に曇り。10時伊勢さん来たり。切手請求に行く。11時頃より驟雨性の豪雨。午後も倍に募る。余小母車を押し、雨を冒して行く。ズボン下をはかず事務服を着用。後ろの方濡れたり。葉書八千請求。小行囊、奥家さん貸して呉る。夜7時30分、瀬口氏宅にて常会。余出席。班長としての同氏には頗る誠意を認む。町内の色々の取り決めに計り決定す。10時退散。一時まで仕事す。水浴して寢床。雨は夕方全く歇む。此の日も雨は頗る多量を算せり。為替窓口、前田員。